

## 市長記者会見記録

日時：2024年1月16日（火）14時00分～14時12分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

### <内容>

#### 【市政一般】

#### 《能登半島地震に関する支援について》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入りますが、進行につきましては、幹事社各社、よろしく願いいたします。

【朝日（幹事社）】 朝日新聞でございます。能登半島地震で被害の激しい地域から金沢市内のホテル、旅館などに2次避難をされる方の報道がありますが、川崎市でもこういった2次避難先の確保を御検討していくのでしょうか。

【市長】 2次避難所というか、もう既に報道発表させていただいておりますけれども、市営住宅あるいは住宅供給公社が持っているもの、23戸だったと記憶しておりますが、提供することを既に現地にお伝えしております、それを石川県なら石川県という形で集約して、そこで来ていただく方、どこにということが決まると聞いておりますが、川崎市に御親戚がいるとか関係のある方、ぜひ川崎市にもお越しいただければと。一刻も早く暖かい住宅に住んでいただくことが大事だと思っています。

【朝日（幹事社）】 仮に首都直下型地震が起きた場合、川崎市の被災者の方が同じような2次避難をする場合の避難先の確保を今後御検討されていきますか。

【市長】 いろんな段階での支援があると思うんですけども、最初、例えば対口支援というのは既に日常的に決められていまして、例えば今回の能登ですと中部あるいは九州、あっちのほうが対口支援先ってブロックごとにもう決められているのがありまして、そこからの復旧支援が行われる。次は、住宅だったら住宅ということで全国に広がりを見せてという形になるので、一番最初に始まる支援とその先になってくるものって、段階によってどこが関わっているかがちょっと変わってくるので、今決められているものに従って行っていくことになろうかと思えます。

【朝日（幹事社）】 ありがとうございます。

【市長】 ごめんなさい、先ほど23戸と申し上げましたけれども、22戸でございます。

ます。

【時事（幹事社）】 同じ幹事社の時事通信と申しますが、よろしく申し上げます。今の能登半島地震の関連で追加なんですけど、22戸の住宅の提供で、例えば申込みが多くなったときに、また住宅の増加とか、もしくはこれまでの市の応援だと、航空隊がもう既に4回ぐらい行っているとか、ジャンルによって重点を置かれているところがいろいろあるかと思うんですが、今後例えば新たに住宅の追加とか、もしくは、これまで市が派遣してこなかったところへの派遣とか、何か考えているところがあれば伺いたいんですけど。

【市長】 まず現状では、本日時点で本市職員63名現地に入っております。それぞれ輪島だとか志賀町ですとか珠洲市、この3地域に入っておりますけれども、先ほどちょっと申し上げたように、上下水道関係では日水協というところが水道環境をやったり、下水のほうは下水のほう、あるいは消防は消防庁から指示が来てという形で、分野別に全国での取組という形をやっています。DMA Tも厚生労働省を通じてという形になっていきますので、そういった意味で、市全体としては把握しておりますが、どこからの命令で来ているのかということにそれぞれ違ってきていますので、その要請に応じて、しっかり対応できるような準備はしております。

今後、例えば応急判定調査みたいなものも出てくるということで、もう財政局のほうで人選、準備に入っておりますし、段階を追っていろんな支援が必要になってくるかと思っておりますけれども、その準備はもう既に行っている状況でございます。

#### 《国政について》

【時事（幹事社）】 分かりました。あと、話は全然変わっちゃうんですけど、去年の暮れぐらいから、自民党の派閥で、派閥の金というか、パーティー券のキックバックとか、大分国政のほうの問題になって、岸田政権も大分その影響を受けていると思うんですが、国政のことをお尋ねするのはどうかと思うんですが、市政は、市議会とか執行部とか、派閥みたいのは存在しないと思うんですけど、市長、以前国政で仕事されていたこともあって、派閥とかそういうのは実際あったほうがいいと思うのか、その辺は考えがあれば伺いたいんですけど。

【市長】 どうでしょうか。政策を勉強するのは僕はいいことだと、グループで専門性を持っていくのは、議員にとってすごく大事な要素だと思うんです。首長とは違い、議員の場合はそれぞれ専門性があると思うので、それを勉強していく集団をつくっていくことと、それとお金の話は全く別問題だと思うので、そこは切り分けて議論したほうがいいのではないかと思います。

【時事（幹事社）】 主に問題になるのは与党で、野党はそもそも派閥があるかどうかというのでちょっと考えるところがあるかと思うんですけど、派閥が政策集団に変わり切れないところは、与党の場合だと、選挙とか総裁選とかそういうのがある以上、なかなか純粋な政策集団として存在できないという、そういう事情があるんでしょうかね。

【市長】 どうなんでしょう。私、国政のことはほとんど今もう、秘書をやっていたのは何年前というぐらいの、20年ぐらいたっておりますので、最近の動向は分かりませんが、人事のこととかあるんでしょうねという想像の域でしかないので、コメントしようがないので申し訳ありません。

【時事（幹事社）】 どうもありがとうございます。

幹事社からは以上です。

#### 《新年度予算について》

【読売】 読売新聞です。言える範囲で構わないんですけど、この間、新年度予算で市長査定があったと思うんですけども、市長が考える新年度予算のポイントがあれば教えてください。

【市長】 新年度予算のことについては、新年度の予算の会見のときに発表させていただきたいと思いますが、いろいろぎりぎり調整をさせていただいております。

#### 《能登半島地震に関する支援について》

【東京】 先ほどの質問の関連で、市営住宅22戸の提供をとというお話がありましたけれども、現時点で申込みがあったとか、今まだないとかというのは把握されていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 現状ではまだそのような話はないと聞いております。

#### 《取材対応について》

【東京】 ちょっと話が変わってしまって申し訳ないんですけども、お隣、横浜市の市長が、報道機関からの新年インタビューに対して、対面でのインタビューには応じず、書面での回答という形になったことがちょっと話題になっておりまして、あと、私もあまり見てないのであまり存じ上げないんですけども、こういう会見の場でも、市長自身ではなく、「市長にお答えいただきたいのですが」と話しかけても事務方が答えるということが多いようなんですけども、それを考えると、福田市長、割と自分の言葉で答えられることが多いかと思うんですけども、川崎市でも先日、市議の方がほかの市議の方のツイートをまねして投稿されるということもあったりしまして、政治家自身の言葉での発信というものについてちょっと考えたいと思っているんです

けれども、福田市長が御自身、政治家としての発信について心がけていらっしゃるかどうかあればお答えいただけますでしょうか。

【市長】 どの場面でもそうですけれども、聞かれたことに対しては、なるべく誠実にお答えするというのは心がけているつもりであります。首長としての考えを示す部分は、それは自分の言葉で発するべきですし、あと専門性に関わる部分には、この会見でもそうですけれども、事務方に助けてもらうこともあるので、そこは役割分担をしっかりとすべきなのではないかと思っています。

【東京】 自分の会社のことでないので言うのはあれなんですけれども、他社さんの新年インタビューについて申込みがあったけれども、お断りになられたということ伺ったんですけれども、それが事実なのかということと、あとその判断についてお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 事実です。これ、相手のある話ですので、当該社に対してはその理由についてもお伝えさせていただきました。ということであります。

【東京】 その理由については、こちらでお答えいただくことは難しいでしょうか。

【市長】 どうですかね。逆に私の発言が御迷惑をかけてしまう。対報道機関の方との間の話だけでなく、それを公にすること自体が逆に不利益になってしまわないかなということ危惧して、私、言うことは構いませんけれども、どうなんだろうという。影響を勘案して、あえて伏せさせていただきたいと思います。

【東京】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問いかがでしょうか。

それでは、本日の記者会見はこちらで終了させていただきます。ありがとうございました。

(以上)

---

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当